

## 第13回東京都北区新庁舎建設基本計画専門家会議 概要

- 日時 令和4年8月31日(水) 10:00~11:30
- 場所 テレビ会議
- 次第
  - 1 開会
  - 2 議事(1) 新庁舎建設基本計画の進捗状況について
  - 3 その他
  - 4 閉会

### ●会議概要

#### 1 開会

#### 2 議事

##### (1) 新庁舎建設基本計画の進捗状況について

- 事務局から、新庁舎建設基本計画の編集作業の進捗状況について説明があった。
- 委員意見等
  - ・ 庁舎規模について、鎌倉市が基本構想の時に25,000㎡に設定していたが、基本計画で20,000㎡へと大幅削減をしている。職員の働き方改革において、DX推進を進めて、建設費を下げるというのを、基本計画の柱にし、削減していた。

状況が違うとは言え、北区の場合は、基本構想から基本計画に至る段階で、庁舎規模が1.5倍になっている。減らすことが全てではないと思うが、1.5倍に増える計画になっていることについては、何か説明が必要なのではないか。
  - ・ 北区の場合は、王子駅にとても近く、区民交流・協働推進機能等、様々な機能を付加させる。庁舎規模に余裕があったとしたら、そういう機能を増強することができる立地。だから、単なる行政の庁舎ではなく、本当の意味でのシビックホールとして使える様なフレキシビリティを考慮することなのかと思う。その辺の説明がきちんと書かれているかどうか、見直してみる事が必要なのかもしれない。
  - ・ これを誰がどう読むのかということ想定しながら文章を書くということなのではないか。これまでも各関係者に説明等してきた中で、議会や区民が何に関心をお持ちなのかを意識しながら、編集して頂くと良いかと思う。
  - ・ 来年度に基本設計を発注して、DXやまちづくりを追加で議論することになると思う。設計者にお任せするというのではなく、区が関与して相当に検討していくという姿勢なのかと思う。庁舎規模には反映できないのかもしれないが、基本計画の内容は基本的に良いと思う。

- ・ 社会でリモートワーク等が進んできたときに、そういうものを最大限駆使して社会に対応していくことと、そういうものを駆使しながらも、対面でやることを続けていくことで補完する対応もしていくことの、両方の方向性があると思う。北区では、後者の、リモートワーク等では対応できない、対面でやることの必要にも対応できることを目指しているという事だろう。
- ・ 鎌倉市のやり方が絶対に良いとは思っていないが、あれ自体がブランディングなのだった。計画の中にDXを明確に入れて、市を挙げて、設計とともにDXに取り組んでいくのだという見せ方が良かったのだろう。北区とはまた違うやり方だと思う。
- ・ 人口増は令和18年まで続くとは言え、現在から1万人程度しか増えない。更に、令和18年から減少局面に入ってくる。人口減少する時期にオープンすることになると思うので、タイミングが凄く気になる。

また、駅前ならではの使い方でも面積設定をすることで、駐車場5,000㎡とにぎわい1,800㎡が入っていたとして、それを除いても、総務省基準よりも多い。

更に言うと、面積削減の検討において、保管する行政文書量の検討がメインになっているが、今後、出勤率とか、職員の配置の分配とかが、一番面積に関わってくる部分だと思う。

プロポーザルや、今後の基本設計で検討の余地を残す等、基本計画だけで定めるものではない方が良いのではないか。また、そうなると、基本設計のプロポーザルの時点で、設計事務所のための業務になるのが良いのかというのが、気になった。設計事務所の業務として始めると、間違いなく、48,500㎡で検討がスタートされると思うが、本当にそれが今後の流れとして良いのか。

- ・ やはり、災害の問題が気になる。100年に1度と言っていたものが、頻繁に起きているようだ。気候変動の問題等は、どこに行っても極めて深刻。改めて、低地の浸水地域に庁舎を開庁することになるから、やはりきちんと対応しておくべき。この場所は、北区にとって本当に肝の場所。

公共施設が、無駄だ、無駄だと言われていたのが、東日本大震災で被災自治体、被災者の受け入れの様なことで、相当活かされた。もし可能ならば、冗長性(リダンダンシー)を備えてもらいたい。財政的にも、立地条件としても、そういう事も踏まえれば、納得してもらえるのではないか。

- ・ 「災害とにぎわい創出を重ねた検討」の中で、「基本計画のモデルケースのうち、いずれかを選択するものではありませんが」と言いながら、「ケース2を基本にケース1やケース3の要素を取り入れながら、前提条件となる方針を整備基本方針に反映しました」とある。これは、ケース1～3を検討して、それぞれの良いところを基本設計での条件とするとか、組み合わせにするとか言えばわかるのだが、わかりにくい。

次の基本設計で、基本計画を基にしてという事が前提になって、色々それ以外の条件を付けて、それで設計者選定。こういう表現が曖昧だと、選定のときに非常に揉める。だから、なるべくわかりやすくする。条件を決めないのだったら、決めない方が良い。それで設計提案のところ、色々な提案ができる可能性を残しておいた方が、私は良いのではないかと思う。それに関して、駐車場は、通常

ならそうなるのだが、地下にしないやり方もある。審査の過程で計画とは違うというだけで不採用にされてしまうことが起こる可能性もある。

だから、色々な可能性を検討してもらって、良い案を出してもらおうということ言えば、決めなければいけないところは決めるけれども、色々なソリューションのあるものに関しては、可能性を残しておいてもいいのではないか。

- ・ 風水害、大規模化する気象災害について、もう一步踏み込んで、きちんとメッセージを発しておかないと、受注者側にもメッセージがうまく届かないのではないか。

中間まとめでも基本機能と必要な性能に再構成すると表現してあって、必要な性能が環境性能、耐震性、業務継続性と進んでいくが、この間に耐水性能や浸水対応という話を挿入するというのは、構成上はあると思う。浸水リスクのある所に進出していくことを、メリットがあるからこそ決めてきた訳だが、気候変動の事も踏まえて、バックアップだとか、高台にある程度機能も残すとかして、万全の備えで移転するという、そういう大上段のところを、きちんと書く。あるいは性能というところに、きちんと耐水性能、浸水対応性能、浸水してもすぐに回復ができる性能を目指すとか、そういう風に書くか、どちらかの余地はあるかと思う。

- ・ 近年はあらゆることが変わっている。浸水区域に関する、対応の仕方も変わっている。だから、新庁舎は浸水区域からは撤退というのは一般的な動き。だから、きちんと説明できるようにしておく。
- ・ 江戸川区の基本計画も見ていたが、参考になる。

新庁舎のトップの理念が防災に強いまちになっていて、明確に、防災にページを割いている。設備は何を入れるか等、具体的な事象が多い。それから、現状の庁舎の課題点にページを割いているのが印象的だと思った。面積の話においても、拡張は悲願だったのだろうと読み取れた。それを見てから北区で見ると、現状の庁舎の問題点のページが、1ページ位しかない。そこも含めて、面積の話と、防災の話に繋げてもいいと思った。

### 3 その他

#### (1) 次回会議日程について

- 次回会議日程 令和4年10月17日(月)

### 4 閉会